

差出人: NewsMail - metaFrontier.jp, LLC <newsmail@metafrontier.jp>  
送信日時: 2014年4月11日金曜日 0:12  
宛先: info@metafrontier.jp  
件名: メタフロンティア ニュースメール Vol.25 (2014/4/11)

各位

いつもお世話になっております。  
メタフロンティア合同会社の柴田賀昭です。

弊社が関わる業界団体の活動に関し、ファイルベース映像制作やデジタル放送関連のトピックやセミナー情報、その他各種ご案内などを不定期にてお届けいたします。

本メールの転送はご自由です。まわりにご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮なくご共有ください。

また配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作をして下さい(宛先: newsmail@metafrontier.jp)。その際、一行目に「配信停止」と記入していただければ自動的に削除されますので、どうぞご遠慮なく。

---

#### ◆目次

- 柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」
- AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発
- EBU(European Broadcasting Union) 発
- FIMS(Framework for Interoperable Media Systems) 発
- SMPTE(Society of Motion Picture and Television Engineers) 発
- その他
- メタフロンティアからのお知らせ

---

#### ◆柴田賀昭の「ちょっとお茶でも。。。」

- 第 13 回 ” ビットコインとは何ぞや?? (その 1)”

2月28日、世界最大の取引所であった「マウントゴックス」の運営会社 Mt. Gox の破たん[1]で一躍有名となった仮想通貨「ビットコイン」。実は昨年あたりから”知る人ぞ知る”ような存在ではあったようですが、柴田がそのことを知ったのはまさにこのニュースが切っ掛けでした。

日本からは早々に「こんなものは長く続かない。どこかで破綻すると思っていた。」といったエライさんの発言が飛び出す[2]など冷やかに見られているようですが、それから早やひと月以上が過ぎてもビットコインの価値は(乱高下はしつつも)それなりに保たれたまま。この類の話は信用を失った途端、一気に破たん・消滅してしまうのが常ですので、これは図らずも、「Mt. Gox の件は同社固有の問題であって、ビットコインの枠組み自体が破たんした訳ではない。」とのビットコイン関係者のコメント[3]が一応は証明されたかたちになっています。

さて、柴田が本コラムを始めてちょうど一年、記念すべきその第1回[4]で書いたネタがまさに”おカネって何だろう～。”であったように、経済や金融にもちょっとした関心を持っていたこと、そして後述するように、前職のソニーにて半導体から IT 分野に転身した際、その研究テーマの探索においていわゆる「電子マネー」にも少々手を出していたことから、今回のビットコイン騒動には非常に興味を引かれ、その勉強に嵌ってしまいました。

当初の入口はやはり “そもそもおカネって何だろう～。” だったのが、ビットコインへの理解が進むにつれて見えてきたのは、「確かにこれって IT 分野における新たなブレークスルーかも知れない。」ということ。既に、世界初の Web ブラウザーである

“NCSA Mosaic”を開発して一世を風靡した Marc Andreessen 氏が絶賛しています[5]のでその考え自体には何ら新しさはありませんが、ただなぜ彼がそこまでビットコインを賞賛していたのかといった事の本質的なところをかなり適切に捉えつつあるような気がしています。

そこで今回から数回にわたって、このビットコインについて、柴田が思うところを色々と述べてみたいと思います。

まず、「そもそもおカネって何だろう？」ということですが、モノの本によれば、おカネの役割は、1) 価値の交換(これを決済と呼びます)、2) 価値の尺度、3) 価値の蓄積とのこと(例えば[6])。ここで1)は、モノやサービスの対価として支払うことができること、2)は、モノやサービスの相対価値が定量的に比較できること(いわゆる「値付け」ですね)、そして3)は平たく言えば、銀行の預金残高などのようなかたちで価値を積み上げられるということです。

そして一般におカネといえば、お財布の中に入ったいわゆる「現金」を思い浮かべることが多いと思いますが、上記の役割を満たすのであれば何も「現金」といった物理的なモノである必要はない訳です。実際今日では、大口決済は言うまでもなく、普段の買い物での支払い方法においても現金が占める割合は既に30%を切っており[7]、残りはクレジットカードや銀行口座への振込といった「価値データの付け替え」とのことです。

まあ金融の専門家からみれば現金決済以外の全てを「価値データの付け替え」と一括りにしてしまうのはかなりの暴論でもありましょうが、その本質を見れば、例えばAさんからBさんに100円を支払うということは、Aさんの預金通帳(Aさんの財布でもウォレット(ソフト)でも構いません!)の残高から100円相当分の価値データを減らし、Bさんの通帳残高を100円相当分増やすといったことをやっているに過ぎません。

歴史的に見れば、かつては石や貝殻がおカネの役割を果たしていたことはよく知られるところですが、その内にそれ自体が絶対的な価値を持つものでないと皆が信用しないだろうということで広がったのが金(gold)の利用、実際には政府によって金との交換が保証された証書(兌換券)がおカネとして流通した訳ですが、これがいわゆる金本位制でした。

しかし、政府が保有していた金が不足しその交換が保証できなくなったと宣言したいわゆるニクソン・ショック[8]から、モノとしてのおカネ自体は、その絶対的な価値の裏付けを失うこととなりました。実際のところ、現在、例えば「1万円札」を作るのに必要なコストは高々20円ちょっとに過ぎません[9]。ではなぜ、我々は「1万円札」に1万円の価値を見出しているのか。突き詰めてみれば、これは結局「単に皆がそう思っているからに過ぎない。」とのこと。もう少し丁寧に言えば、次に何かしら1万円相当のサービスを受けた場合にその対価として、今受け取った「1万円札」を、そのサービス提供者が受け取ってくれることを信じているに過ぎない、ということです。

従って、理屈の上では皆が信用さえすれば何だっておカネになりうる訳でして、それはモノでなくとも情報のやり取りでも構わないということです。逆に言えば、一旦信用を失えば昨日まで「おカネ」と思っていたモノが只の紙屑になってしまう訳でして、これは歴史的には第一次世界大戦後のドイツ[10]や第二次世界大戦後のハンガリー[11]、そして最近でもジンバブエ[12]で見られたいわゆるハイパーインフレに他なりません。

さて、ビットコインのお話をするといいながら、結局今回は「そもそもおカネって何だろう？」といった前振り話で終始してしまいました。済みません。次回は何とか本題に入りたいと思いますので、引き続きお付き合いいただけますと嬉しいです。

なお蛇足ながら書籍のご紹介を。

この一般論としての「おカネの話」、これまで柴田が色々と資料を探ってきた中では、日銀出身で現在早稲田ビジネススクールの教授を務められる岩村充先生が書かれた“貨幣進化論—「成長なき時代」の通貨システム”(新潮選書)[13]が秀逸でした。もしこんな話にご興味を持たれたようでしたら、是非一度、同書を覗いてみて下さい。

[1] [http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC28020\\_Y4A220C1000000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC28020_Y4A220C1000000/)

[2] <http://digital.asahi.com/articles/ASG2X2VKKG2XULFA006.html>

[3] <http://astand.asahi.com/magazine/wrbusiness/2014031000004.html>

[4] <http://metafrontier.jp/drupal/sites/default/files/info/metaFrontierNewsMailVol13-130415.pdf>

[5] <http://www.makfive.com/why-bitcoin-matters/>

[6] <https://www.77bank.co.jp/museum/okane/0701.htm>

[7] <http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324774204578212783523139000.html>

[8]

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8B%E3%82%AF%E3%82%BD%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%82%AF>

[9] <http://okwave.jp/qa/q63179.html>

[10] <http://royallibrary.sakura.ne.jp/ww2/gimon/gimon8.html>

[11] <http://madwaltz.com/about/hyper-hungary.html>

[12] <http://thepage.jp/detail/20140227-00000008-wordleaf>

[13]

<http://www.amazon.co.jp/%E8%B2%A8%E5%B9%A3%E9%80%B2%E5%8C%96%E8%AB%96%E2%80%95%E3%80%8C%E6%88%90%E9%95%B7%E3%81%AA%E3%81%8D%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%80%8D%E3%81%AE%E9%80%9A%E8%B2%A8%E3%82%B7%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%A0-%E6%96%B0%E6%BD%AE%E9%81%B8%E6%9B%B8-%E5%B2%A9%E6%9D%91-%E5%85%85/dp/4106036665>

#### ◆AMWA(Advanced Media Workflow Association) 発

- 2014 NAB Show において、North Hall 内 NAB Labs Futures Park にて展示を予定しています(ブース番号:N1331)。

<http://www.amwa.tv/>

- AMWA Member Newsletter 2014 年 4 月号が発行されました。

<http://us7.campaign-archive1.com/?u=8da587f1beeda2c1521c2e9b3&id=9ed296eaf3&e=516a2e92a3>

#### ◆EBU(European Broadcasting Union) 発

- EBU Core 1.5 がリリースされました。

[http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5857527734678364164&gid=4131500&trk=eml-anet\\_dig-b\\_nd-pst\\_ttle-cn&fromEmail=&ut=0tn8y03Nkxd6c1](http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5857527734678364164&gid=4131500&trk=eml-anet_dig-b_nd-pst_ttle-cn&fromEmail=&ut=0tn8y03Nkxd6c1)

なお、上記へのアクセスには LinkedIn へのアカウント登録(無料)が必要です。  
(規格文書)

[https://tech.ebu.ch/docs/tech/tech3293v1\\_5.pdf](https://tech.ebu.ch/docs/tech/tech3293v1_5.pdf)

- EBU Tech 3361-2: "Service Level Agreement for Media Transport Service - Glossary of Terms"が発行されました。

<https://tech.ebu.ch/docs/tech/tech3361-2.pdf>

- 6/24(火)-25(水)の日程で Geneva で開催予定の"Network Technology Seminar 2014"が、参加者の募集を開始しました。

[https://tech.ebu.ch/events/nts2014?newsletter\\_april2014](https://tech.ebu.ch/events/nts2014?newsletter_april2014)

- 次世代字幕スーパ仕様である EBU Timed Text をベースにイギリス固有の要件を反映させた DPP-EBU-TT 標準規格が、DPP(Digital Production Partnership)にて策定されました。

<http://www.digitalproductionpartnership.co.uk/news/dpp-launches-access-services-standards/>  
(規格文書)

[http://dpp-assets.s3.amazonaws.com/wp-content/uploads/2014/03/Subtitle\\_Ex\\_Format\\_Final.pdf](http://dpp-assets.s3.amazonaws.com/wp-content/uploads/2014/03/Subtitle_Ex_Format_Final.pdf)

#### ◆FIMS(Framework for Interoperable Media Systems) 発

- 2014 NAB Show において、North Hall 内 NAB Labs Futures Park にて展示を予定しています(ブース番号:N1231)。

[http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5850574800124157952&gid=3770968&trk=eml-anet\\_dig-b\\_nd-pst\\_ttle-cn&fromEmail=&ut=1gihBnjLy2Nm81](http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5850574800124157952&gid=3770968&trk=eml-anet_dig-b_nd-pst_ttle-cn&fromEmail=&ut=1gihBnjLy2Nm81)

[http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5855009616559116290&gid=3770968&trk=eml-anet\\_dig-b\\_nd-pst\\_ttle-cn&fromEmail=&ut=3R00jWc5B52Cc1](http://www.linkedin.com/groupAnswers?viewQuestionAndAnswers=&discussionID=5855009616559116290&gid=3770968&trk=eml-anet_dig-b_nd-pst_ttle-cn&fromEmail=&ut=3R00jWc5B52Cc1)

なお、上記へのアクセスには LinkedIn へのアカウント登録(無料)が必要です。  
同ブースでの発表プログラムは、以下からもご覧いただけます。

<http://fims.tv/>

◆SMPTE (Society of Motion Picture and Television Engineers) 発

- SMPTE Newswatch 2014 年 4 月 4 日号が発行されました。

<http://campaign.r20.constantcontact.com/render?ca=38f335d6-78d2-474a-8ba0-0a1dfd338912&c=4b0a8690-aaf4-11e3-a973-d4ae526edd6c&ch=4c622750-aaf4-11e3-a9d0-d4ae526edd6c>

- SMPTE Newswatch 2014 年 3 月 14 日号が発行されました。

<http://campaign.r20.constantcontact.com/render?ca=72b17878-8f01-499c-8ce4-ea188c126cba&c=4b0a8690-aaf4-11e3-a973-d4ae526edd6c&ch=4c622750-aaf4-11e3-a9d0-d4ae526edd6c>

- “Disruptive Weather Conditions: Clouds in the Forecast”なるタイトルのオンラインセミナーが、4/18(金) 2:00(日本時間)から開催されます。

[https://www.smpte.org/webcasts/cloud?utm\\_source=Webcasts+-+March+2014+%237&utm\\_campaign=PDA&utm\\_medium=email](https://www.smpte.org/webcasts/cloud?utm_source=Webcasts+-+March+2014+%237&utm_campaign=PDA&utm_medium=email)

- “A Perceptual EOTF (Electro-Optical Transfer Function) for Extended Dynamic Range Imagery”なるタイトルの標準規格関連の無料オンラインセミナーが、5/7(水) 2:00(日本時間)から開催されます。

[https://www.smpte.org/webcasts/EOTF?utm\\_source=Webcasts+-+April+2014+%232a&utm\\_campaign=PDA&utm\\_medium=email](https://www.smpte.org/webcasts/EOTF?utm_source=Webcasts+-+April+2014+%232a&utm_campaign=PDA&utm_medium=email)

- SMPTE Monthly Newsletter 2014 年 3 月号が発行されました。

<http://campaign.r20.constantcontact.com/render?ca=515572b6-d49a-44c5-97d6-571057e813d7&c=4b0a8690-aaf4-11e3-a973-d4ae526edd6c&ch=4c622750-aaf4-11e3-a9d0-d4ae526edd6c>

- 6/17(火)-18(水)の日程で Stanford University で開催予定の“Entertainment Technology in the Internet Age”が、参加者を募集中です。

[https://www.smpte.org/etia2014?utm\\_source=SMPTE%20MONTHLY%20-%20March%202014&utm\\_campaign=Monthly&utm\\_medium=email](https://www.smpte.org/etia2014?utm_source=SMPTE%20MONTHLY%20-%20March%202014&utm_campaign=Monthly&utm_medium=email)

- 5/13(火)-14(水)の日程で New York で開催予定の“Streaming Media East”が、参加者を募集中です。

<http://www.streamingmedia.com/conferences/East2014/>

◆その他

- 8/31(日)-9/2(火)の日程で大阪で開催予定の映像情報メディア学会 2014 年年次大会が発表論文の募集を開始しました。締切は 6/10(火)です。

<http://www.ite.or.jp/data/event/new/?mode=disp&key=55&lid=&sort=&word=&page=1>

- 茂木経産相から、特許庁の特許取得審査を 2023 年度までに半分以下の 14 カ月以内にする方針が表明されました。

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC11002\\_R10C14A3MM0000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC11002_R10C14A3MM0000/)

- 英 Quantel 社が、英 Snell 社を買収しました。

<http://blog.devoncroft.com/2014/03/12/broadcast-vendor-ma-quantel-acquires-snell/>

- 米 Harris Broadcast 社が、IT 関連を担当する Imagine Communications 社と、放送機器を担当する GatesAir 社の二つに分割されることとなりました。

<http://blog.devoncroft.com/2014/03/17/harris-broadcast-splits-into-two-standalone-companies-drops-harris-name-brings-back-gates/>

- Mr. MXF こと Bruce Devlin 氏 (AmberFin CTO) による無料オンラインセミナー  
"Bruce's Shorts - Tip of the Week..." (日本語字幕付) が、好評配信中です。  
<http://www.amberfin.com/shorts-jp/>

◆メタフロンティアからのお知らせ  
(新着情報: <http://metafrontier.jp>)

- 弊社が SMPTE に提案し、進行中の「UMID 応用プロジェクト」(TC-30MR SG UMID Applications)において、UMID 解決プロトコルの検討結果などを記載したレポート (Study Report on UMID Applications Part 2-1) が上位 30MR 技術委員会 (TC-30MR) へ上程され、同委員会でのレビューが開始されました。
- 柴田賀昭が SMPTE で議長を務める「UMID 応用プロジェクト」において提案された、SMPTE RP 205 (Application of Unique Material Identifiers in Production and Broadcast Environments) 改定ドラフトが、FGD (Final Committee Draft) 投票を通過し、投票コメントに基づく修正を経て、DP (Draft Publication) 前レビューが開始されました。  
[https://kws.smpte.org/kws/groups/30mr/documents/ballot\\_documents/document?document\\_id=28033](https://kws.smpte.org/kws/groups/30mr/documents/ballot_documents/document?document_id=28033)

- 「この戦略製品・サービスを特許で守るにはどうすればいいのだろう？」とお悩みの方はいらっしゃいませんか？また、「出願はしたもののその後の対応が不適切で拒絶査定を受けてしまった。」とか、「何とか特許は取ったものの競合に簡単に回避され、結局はカネの無駄に終わってしまった。」なんて悩みもしばしば聞かれるところです。

モノづくりによる差異化が厳しくなる中、新たなビジネスの展開において特許制度の戦略的な活用がますます重要になってきました。ここで戦略的な活用とは、単に思い付きのアイデアを特許出願することでなく、そのビジネスの展開においてその特許の目的や役割ををきちんと見定め、最小の費用で最大の効果を狙うということです。

すなわち、まずはその製品・サービスのどの部分が特許で保護できそうかといった検討から始め、次に、特許出願とは技術情報を公にすることであり、またその権利化までには相当の時間と費用が掛かることを踏まえ、それは本当に特許を取得すべき技術内容かどうかを様々な側面からしっかりと検討する必要があります。そして一旦出願すると決めたならば、特許庁の厳格な審査に耐えて権利化を獲得すべく、十分な先行技術調査のもと先行技術に対する優位性を明確に訴求する必要があります。

特許出願と言え一般的には特許事務所の仕事と考えていませんか？もちろん最終的に特許を出願する時には弁理士への依頼が必要です。しかし彼らの商売は御社に出願してもらって初めてナンボの世界、つまりそこには、必ずしも御社のビジネス、製品戦略に最適の助言ができるとは限らない構造的な問題があります。

さらに技術分野が細分化、深化する中、ひとりの人間がカバーできる範囲には自ずから限界がありますので、必ずしも御社の発明内容を本当に深く理解できる弁理士に担当してもらえとは限りませんし、ましてや御社のビジネス戦略上の選択肢のひとつとしての知財活用のあり方などは、一般的に彼らの専門領域を超えた範疇の話となります。

最近、前職において 40 件以上の出願をおこない、その後知財部署に異動してその 3/4 以上の権利化を達成した経験 [1] を見込んでいただいたクライアント様から、特許出願に関するご相談を承り対応して参りました。ここでは、単に特許出願のみならず、自らの経験に基づいた国際標準化活動なども勘案したビジネス戦略上の活用方法などについてもアドバイスをさせていただきました。

私どもは弁理士ではございませんが、前職にてビジネス戦略における特許制度の活用方法を様々な側面から深く調査研究した経験があります。さらに自ら発明者として多数の特許を出願し、また知財担当としてそれらの多くを権利化した実績があります。

ただ私どもの専門分野はあくまで映像技術あるいは IT/マルチメディアですからそれ以外の、例えば化学や医療関連といった分野では門外漢です。

つきましては、もし御社で特許に関するお悩みや相談事などがございましたら、

是非ご支援をさせていただきたく、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。

[1] これまでに柴田賀昭が出願、取得した特許の一覧です。  
<http://metafrontier.jp/drupal/ja/about/members/patents>

- ファイルベースワークフローを導入したものの「こんな筈ではなかった。」とか「何とか使ってはいるものの完全なブラックボックス状態で、万一の時が不安。」などといったことでお困りのユーザ様はいらっしゃいませんか？  
特にこれまで親しんできた技術トレンドとは“非連続”な IT ベース技術が業界に急速に広がるにつれ、ユーザ様とベンダ様との会話がうまくかみ合わず、関係を損ねてしまったといったお話もちらほらと伺っております。  
ファイルベース技術は今も日々改良が進められているものの、残念ながら現時点においても、(ベンダ様を問わず)ユーザ様のあらゆる要求を完全に満足できるようなソリューションが提供可能な技術レベルには達していません。  
従ってファイルベースワークフローの導入を本当に成功させるためには、ユーザ様、ベンダ様が互いの深い信頼関係の元、技術とコストの兼ね合いから、その時点での「ベストソリューション」を互いに切磋琢磨しながら探っていくといった姿勢こそが最も大切なことでもあります。  
弊社ではファイルベースに関する豊富な技術知識を元に、ベンダニュートラルな立場から、ユーザ様とベンダ様が相互理解をより深めて「ベストソリューション」を見出すための“技術通訳”といったお手伝いをさせていただきたいと考えております。  
つきましては、何かお困りのことがございましたら、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお声掛け下さい。
- MXF (Material Exchange Format) の出張セミナー、引き続き好評提供中です。  
“MXF は初めて”という方々を対象に MXF が絡むビジネス判断をおこなう上で必要とされる MXF 技術の基本知識の習得を目的とした「基礎編」と、これから本格的に SMPTE の MXF 関連規格書を読みこなしていく方々を対象に、その前準備として必要とされる MXF 技術の全体像の把握を目的とした「応用編」をベースに、御社のニーズに応じたかたちにカスタマイズして提供させていただきます。  
その他、ご要望により XML (eXtensible Markup Language) の基本や FIMS 等の技術セミナーにも柔軟に対応させていただきますので、まずは弊社(info@metafrontier.jp)までお気軽にお問合せ下さい。

今回のご紹介は以上です。  
ここまでお読み下さり、ありがとうございました。

---

本メールは、弊社スタッフがこれまでに名刺交換させていただいた方や、弊社 HP からのお問い合わせの際、アドレスをご登録いただいた方などにお送りしております。

配信停止を希望される方は、お手数ではございますが本メールに対して返信操作をして下さい(宛先: [news@mail@metafrontier.jp](mailto:news@mail@metafrontier.jp))。その際、一行目に「配信停止」と記入していただければ自動的に削除されますので、どうぞご遠慮なく。

また本メールを転送などで受取られた方で、今後の受信を希望される場合は、一行目に「配信希望」とご記入の上、お名前、会社名(あるいは所属組織名)を添えて下記宛先にご連絡いただければ、次回から送信させていただきます。

また本メールに関するご意見、ご感想などがございましたら、こちらも下記宛先にお送り下さい  
(宛先: [request4news@mail@metafrontier.jp](mailto:request4news@mail@metafrontier.jp))。

編集/発行 : メタフロンティア合同会社 柴田賀昭  
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川 1-13-12 アーバンビル 6F  
URL: [www.metafrontier.jp](http://www.metafrontier.jp)

Copyright (C) 2012-2014 metaFrontier.jp, LLC. All Rights Reserved

---